

## 1. 研究課題・受託者・研究開発期間・研究開発予算

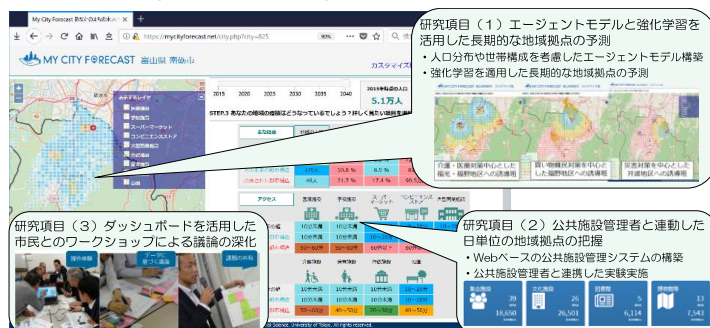
- ◆研究開発課題名: データ連携・利活用による地域課題解決のための実証型研究開発
- ◆副題: デジタルコミュニケーションを駆使した小規模自治体における市民協働型まちづくり
- ◆実施機関: 国立大学法人東京大学、一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会、株式会社まとめる専門家
- ◆研究開発期間: 平成30年度～令和2年度 (3年間)
- ◆研究開発予算: 総額30百万円 (令和元年度10百万円)

## 2. 研究開発の目標

本研究は、市民のまちづくりへの協働意識を高めていくために、小規模自治体の公共施設の利用データをリアルタイムに集約しつつ、住民一人一人のエージェントモデルと強化学習をもとにした将来の地域拠点集約のシナリオ群を整理し、地域でのワークショップでそれらを共有する事により、市民の協働意識がどのように変容していくかを把握し、地域における次世代型のデジタルコミュニケーションのあり方を検討する。

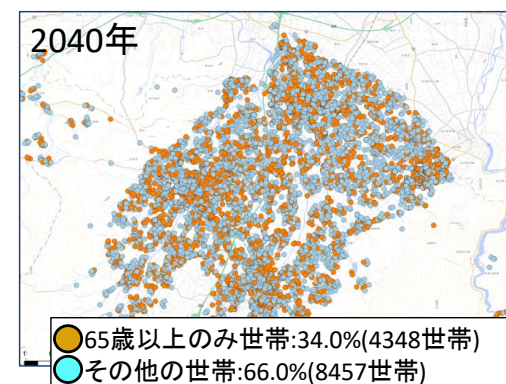
## 3. 研究開発の成果

とくに小規模自治体で長期的な地域拠点がどう収斂していくか、いくべきかをマイクロレベルからシミュレーションしつつ、実態も日々の公共施設運用から抑える。



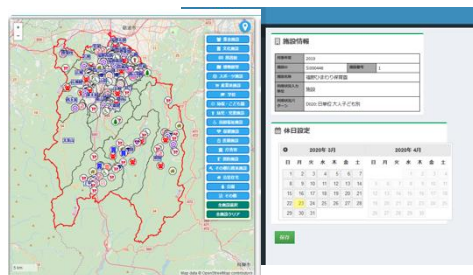
## 研究開発項目1 エージェントモデルと強化学習を活用した長期的な地域拠点の予測

- ・人口分布や世帯構成を考慮したエージェントモデル構築
- ・南砺市における長期居住に関する住居選択モデルを考慮した世帯単位のシミュレーションを実施



## 研究開発項目2 公共施設管理者と連動した日単位の地域拠点の把握

- ・Webベースで、公共施設管理システムの構築と運用の開始
- ・公共施設管理者と連携し、入力機能の改善や入力状況のモニタリング



## 研究開発項目3 ダッシュボードを活用した市民とのワークショップによる議論の深化

- ・まちの将来像に関する市民Webアンケートの実施
- ・高校におけるMCFをベースとしたワークショップ実施
- ・デジタル南砺研究会の開催



4. 特許出願、論文発表等、及びトピックス

国内出願	外国出願	研究論文	その他研究発表	プレスリリース 報道	展示会	標準化提案
0 ( 0 )	0 ( 0 )	2 ( 0 )	12 ( 4 )	12 ( 12 )	0 ( 0 )	0 ( 0 )

※成果数は累計件数、( )内は当該年度の件数です。

■産学官連携のための研究会を主催

円滑な研究開発や実証実験の取り組みを行うために、2019年度は主なフィールドとなる南砺市で自治体職員はもちろん、地元の企業や学校、有識者などの参加による研究会「デジタル南砺研究会」を南砺市の全面的な協力のもとで主催し、広く研究開発の目的や目標などの共有を実施した。ここでは、本委託研究で行っている研究開発の進捗を中心に、自治体や地元側のデータ活用ニーズについての発表・意見交換や、外部有識者からの話題提供なども実施し、小規模多機能自治体を掲げる南砺市におけるデジタルデータ活用・デジタルコミュニケーションのニーズ把握に努めた。

5. 今後の研究開発計画

2019年度に得られた知見やデータ分析等の結果に基づき、シミュレーションの精度向上に向けたデータ比較やモデルの反映を引き続き行うと同時に、可能なものについては本格的な運用が開始された公共施設マネジメントシステムやその他のWebインターフェースを通じて、積極的に地理空間情報として公開し、ワークショップの開催や、自治体と市民による日常的なデジタルコミュニケーションのツールとしても活用できるよう試行する。

引き続き、年度内に3～4回程度、デジタル南砺研究会を主催し、本委託研究開発に関する実証実験やワークショップの途中経過等を共有し、各分野における地域情報のデジタル化について意見交換をおこない、今後の研究開発や地域の横展開へ活かす。